

# 鎮南浦石炭船積設備に就て

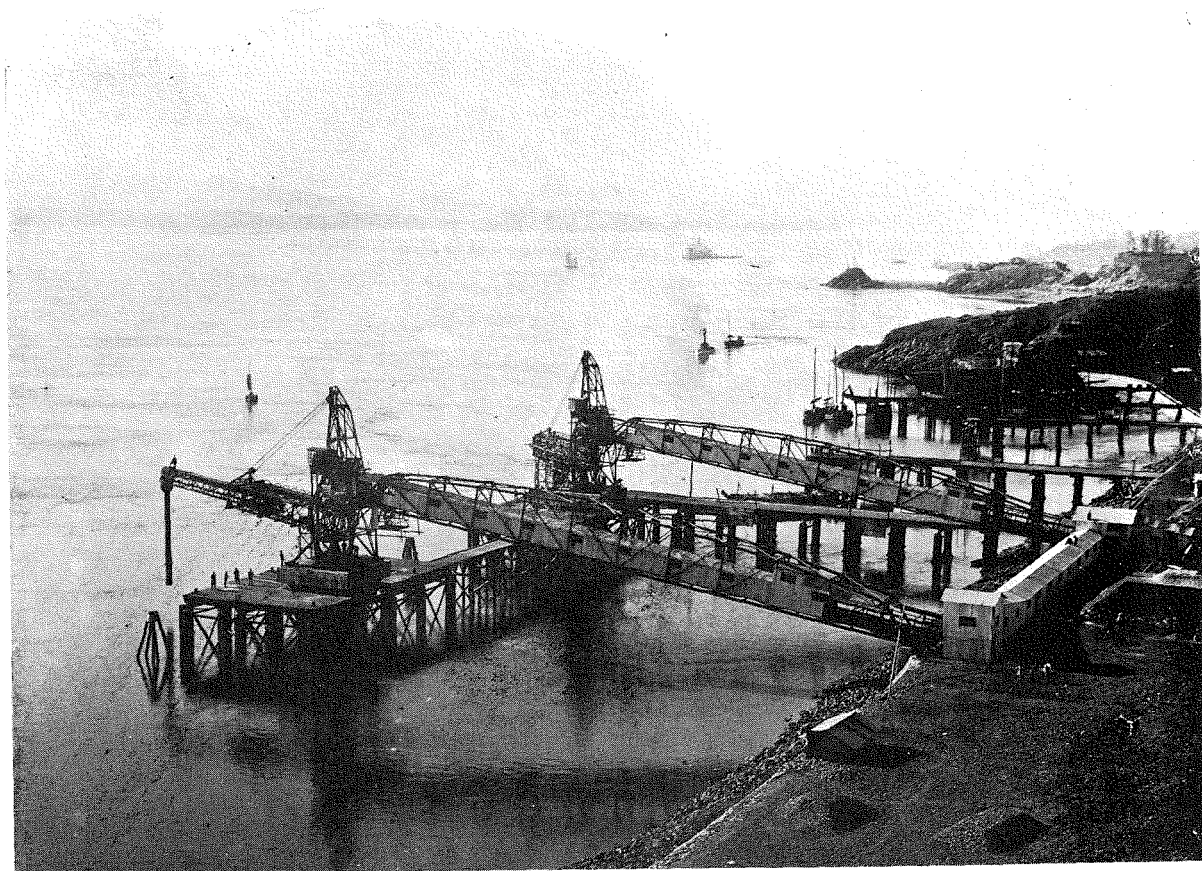
朝鮮總督府鐵道局 清水 幸次  
工務課長

**位置** 朝鮮平安南道鎮南浦港

**工事概要** 貯炭場は埋立地にして地盤軟弱なり爲に起重機走行桁支柱及基礎は鐵筋コンクリートとし、末口25呎長さ10米の松丸太杭を1個所につき24本打ち込みたるも、竣功後使用中沈下せるため、第二期施行の際は杭長14米とし48本打ち込み安全を期したり。

海底も地質軟弱にして干満の差最大6米20呎あり、且つ冬期流氷甚だしき爲、積込機臺は井筒とし之と獨立した矩形棧橋を以て圍まる。井筒はオープンケーソン式により棧橋々脚は鐵胴及鐵筋コンクリート併用の圍塙式とし、基礎杭は脚1本につき末口25呎長さ18米の松丸太を5本用ひたり。

## (1) 鎮南浦石炭



**設備概要** 施設の諸能力は別表の如くにして

その大要を記せば次の如し。

繫船埠頭は江岸より約60米離るゝ二子島式  
棧橋にして、其中央には夫々石炭積込機を  
設置し、貯炭場とはトラス橋を以て連絡せ  
しめ、送炭はベルトコンベヤーに依る。

尙貯炭場内の操炭はレベル・ラツフイング  
クレーン2臺を以てし、ホツパーに積込ま  
れたる炭はベルトコンベヤーに順次落下し  
コンベヤーの終端に於て2基の積機に込依  
り船艙に積込まる。積込機は固定式なるも  
其先端にコンベヤー・ブームを有し、之を  
船の大小及潮の干満に應じ俯仰或は左右に  
旋廻させ、船體を移動することなく積込み

船 積 設 備 全 景。

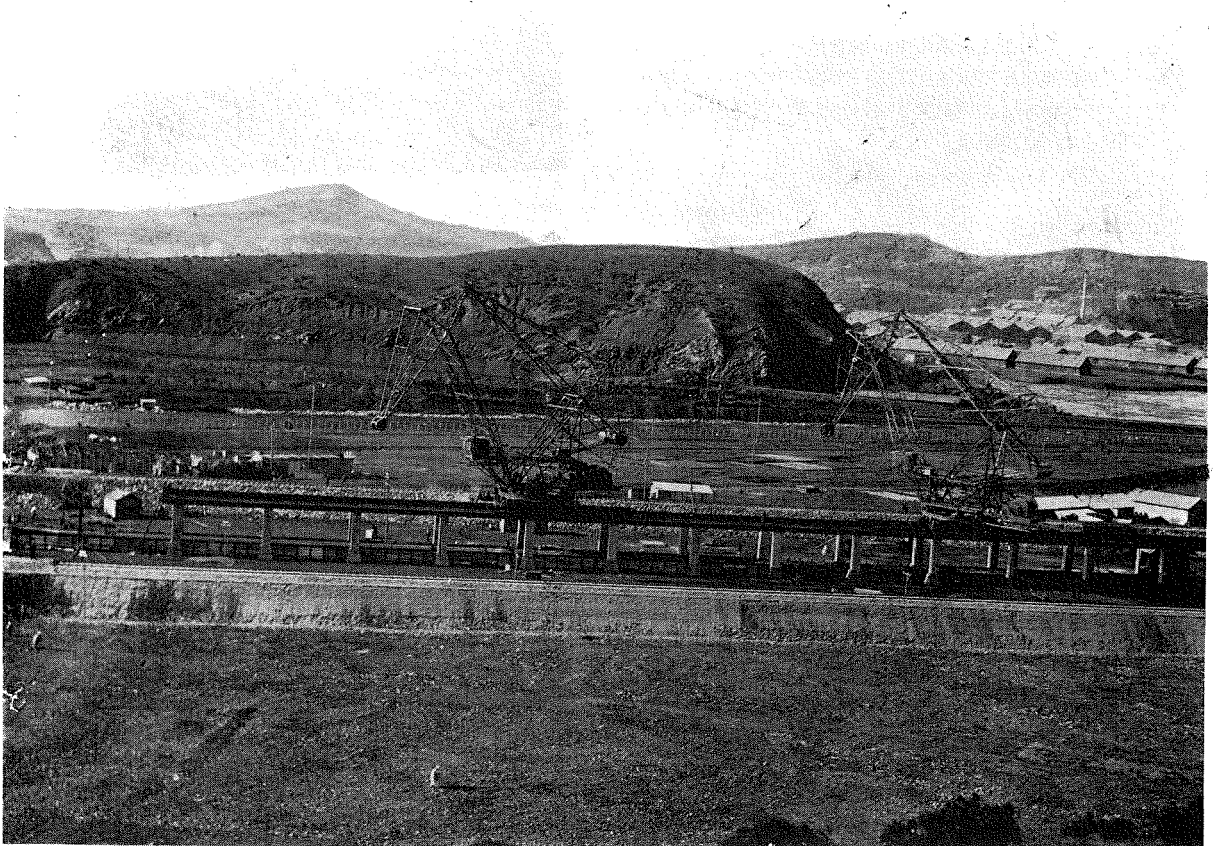
得る装置とせり。

**工事関係者** (設計及監督)朝鮮總督府鐵道局  
技師松野正志。

(請負者) 繫船設備及各種基礎工事第一期  
は株式會社間組、第二期は合資會社水谷組  
機械設備工事は第一期第二期共住友別子鑛  
山株式會社新居濱製作所なり。

**工期** 第一期工事は昭和7年4月起工し、昭和  
8年2月に竣工、第二期は昭和9年6月に起工  
し、同年11月に竣工せり。

**附記** 本港位置は京義線平壤驛にて平南線に  
乗換へ鎮南浦驛に至るものにして、附近に  
は龍岡温泉、江西古墳、ドルメン等あり。

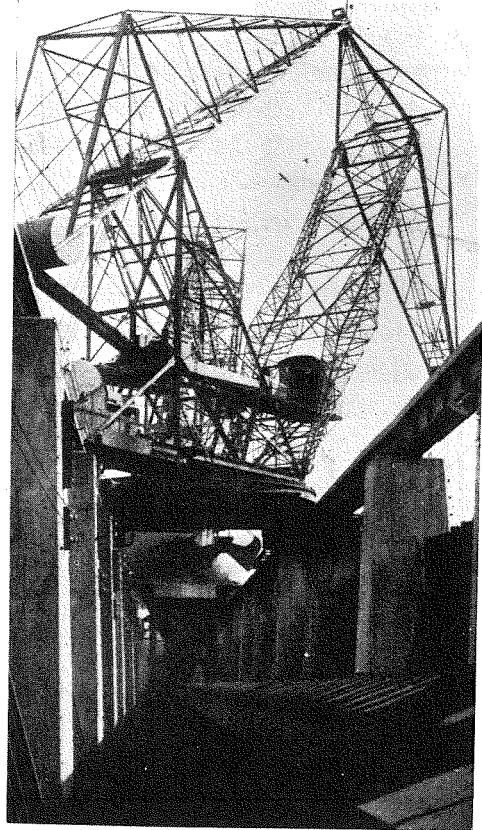


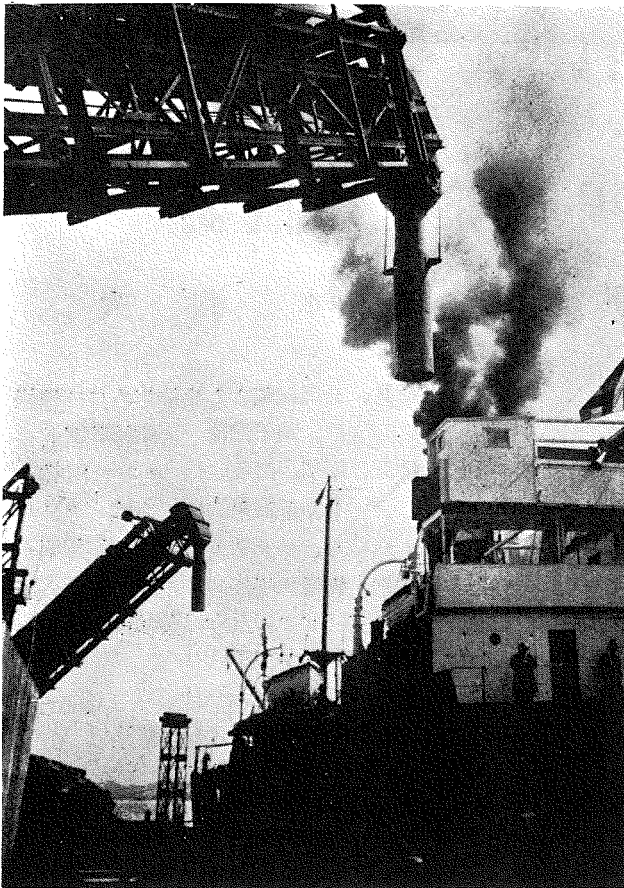
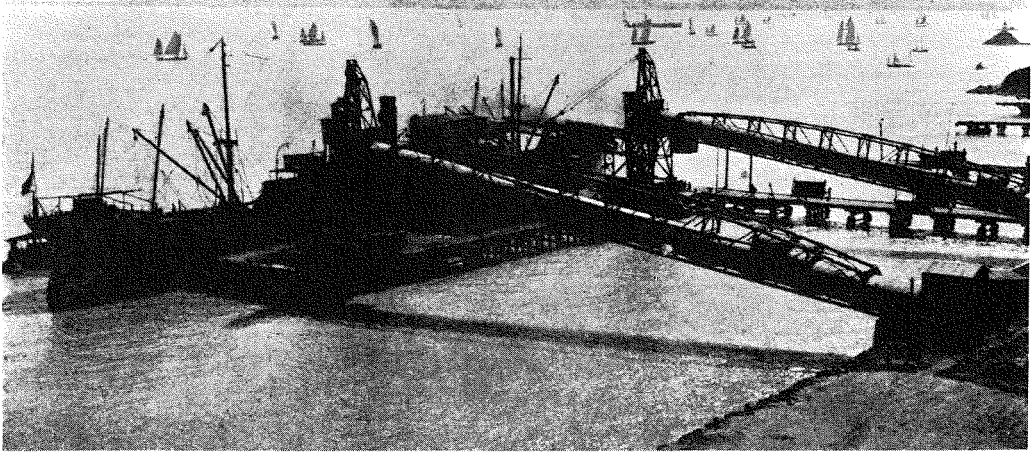
## 設 備 概 要

繫 船 備	棧	橋	二子島式
	浮	標	二箇所
積 込 能 力	繫 船 有 効		1,000噸乃至6,000噸級一隻
	一 時 間 二 付		300噸乃至400噸
貯 炭 貯 炭	面 積		15,000平方米
	能 力		60,000噸乃至90,000噸
機 械 設 備	一 箇 年 移 出 能 力		500,000 噸
	貯炭場起重機		2 基
	移動ホツパー		2 基
	貯炭場コンベヤー		2 條
	同上連絡コンベヤー		1 條
	傾斜橋上コンベヤー		2 條
	連続自動秤量機		2 基
	積 込 機		2 基
	ベルト 幅		914 耗
	速 度		140米分
電動機總馬力		1,000 馬力	

(2) 貯 炭 場 起 重 機。

(3) 同上、高架桁上に設置せられた起重機は自由に走行旋回が出来る様になつて居りグラブバケットで石炭を把み上げ移動式ホツパーを通じて送炭用のコンベヤーに給炭する。





(4) 埠頭コンベヤー・起重機によつてコンベヤーに送炭された石炭は傾斜トラス橋を経て積込機によつて船積される。二基の積込機は何れも俯仰、旋回し得る。さら船舶の大小や潮汐干満の差に應じ運炭船を移動することなく積込むことが出来る。

(5) 伸縮式送炭筒・積込機先端には伸縮自在の送炭筒を懸垂してあるが、之は無煙炭の如き微粉炭の飛散を防ぎ積込位置を定めたるための重要な役目を持つてゐる。